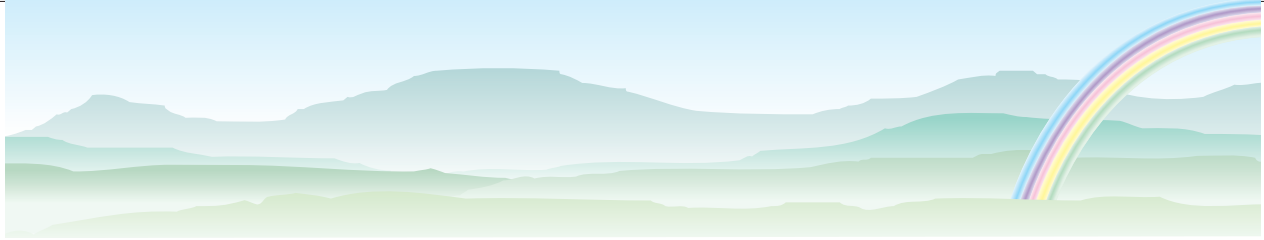
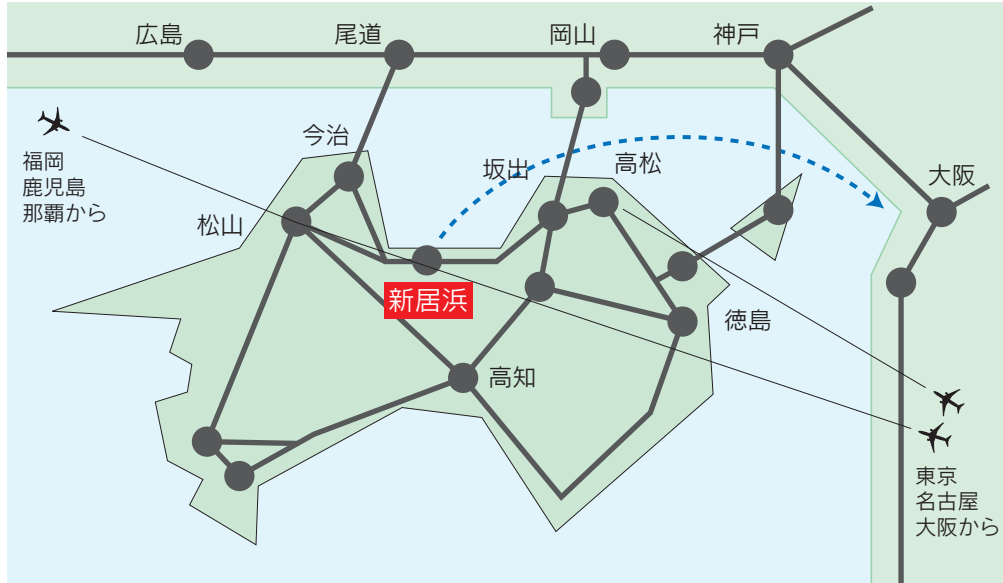

第2部 資料編



1 新居浜市の概要

(1) 位置及び地勢



新居浜市は愛媛県の東部、東経133度17分、北緯33度57分に位置し、県都松山市の50km圏、自動車・鉄道による時間距離にして1.5時間圏の面積234.30km、人口約12万6千人を擁する県下第3位の都市です。

地勢的には燧灘沿いと、標高1,800mに及ぶ高知県と接する石鎚山系にはさまれており、扇型に広がりを見せる平野部、丘陵部及び山地からなっています。

石鎚山系沿いには中央構造線が走り地質は複雑ですが、かつて我が国屈指の銅山として知られた別子銅山、あるいは伊予青石とも呼ばれる名石等を生みだしてきました。また、新居浜平野の背後に連なる険しい山並は、本市の象徴的な景観を形づくっています。

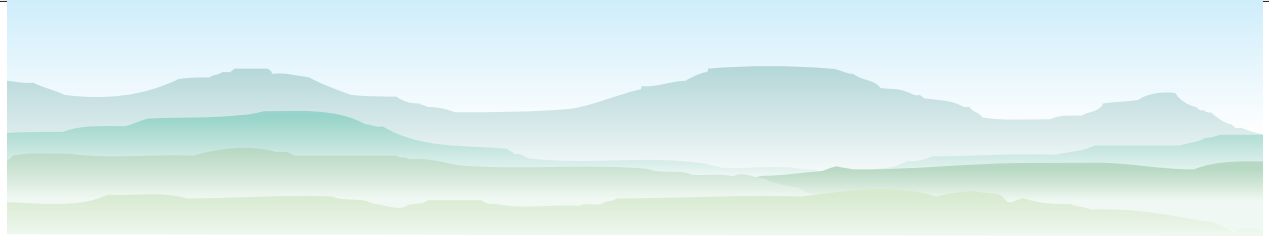
(2) 沿革

新居浜地方には数千年の昔から人々が住み着いていたことが知られており、2世紀後半の大和朝廷の時代には、景行天皇の皇子「武国凝別命」(たけくにこりわけのみこと)が伊予国御村別として御村(東予)に君臨したといわれています。

大化の改新後は郡制が敷かれて、この地方に神野郡(後の新居郡)が置かれました。神野郡の郡家(郡役所)は、はじめ郡の西部(西条地方)に設けられていましたが、奈良朝末期にはこれを郡の東部中村に遷し、ここに新庁舎を創建して「新居」とし、神野郡新居郷の北方海浜を「新居浜」と呼ぶようになりました。

市域の変遷

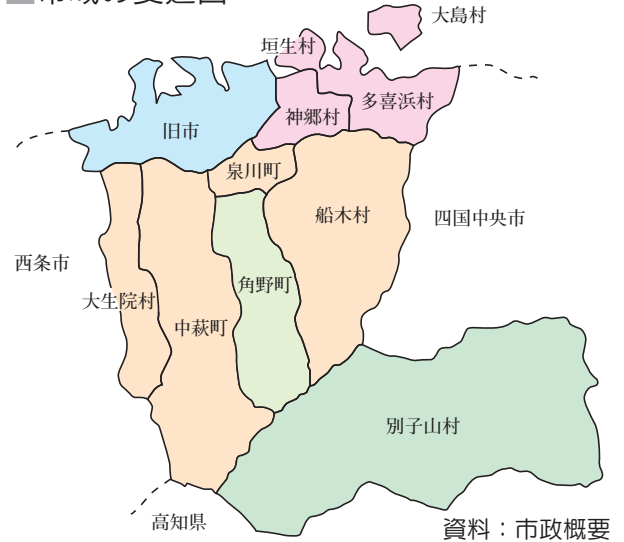
年月日	面積 (Km ²)	人口 (人)	概要
昭和12年11月3日	18.39	32,254	市制施行(新居郡新居浜町、金子村、高津村合併)
昭和28年5月3日	43.42	73,671	新居郡垣生村、大島村、多喜浜村、神郷村編入
昭和30年3月31日	161.35	101,870	新居郡泉川町、中萩町、船木村、大生院村編入
昭和31年9月28日	142.04	106,421	大生院西部地区を西条市に分離
昭和34年4月1日	157.41	120,863	新居郡角野町編入
平成15年4月1日	234.30	127,926	宇摩郡別子山村編入
平成21年4月1日	234.30	126,072	現況



かつて、一農漁村にすぎなかった新居浜が、元禄4年の別子銅山の開坑によって逐年繁栄し、現在では住友系諸会社を中心とする企業が立地しています。

新居浜地方は、江戸時代には西条藩、小松藩及び幕領により現在の市域が構成されていましたが、明治22年の町村制の施行により、新居浜（明治41年町制実施）、金子、高津、垣生、神郷、多喜浜、大島、泉川、船木、角野、中萩、大生院の12か村となりました。その後、昭和12年11月3日に新居浜、金子、高津の3か町村が合併して市政を施行し、以後、周辺町村との数回にわたる合併、編入を経て今日に至っております。

■市域の変遷図

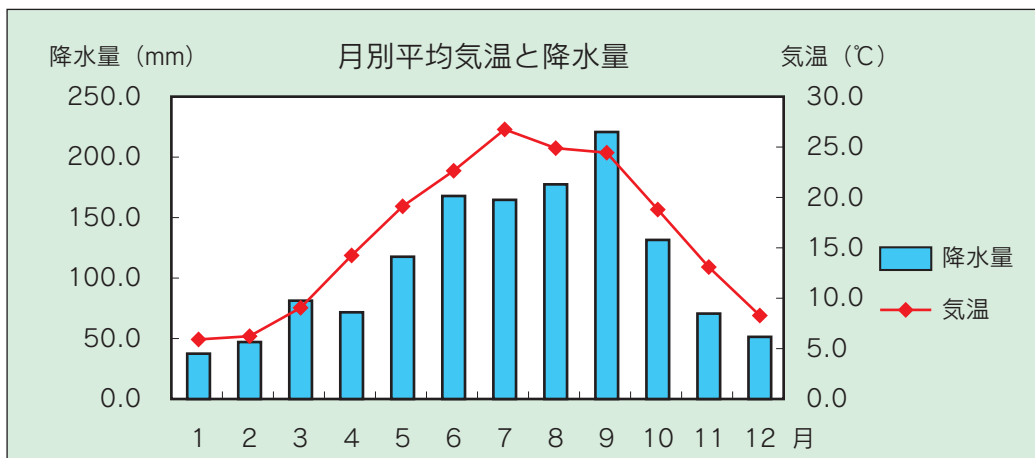


昭和30年以後は住友企業のコンビナート基地として栄え、昭和39年には新産業都市の指定を受け、四国屈指の臨海工業都市となりました。昭和40年代の高度成長期、昭和48年別子銅山の閉山、二度にわたるオイルショック、円高不況という厳しい社会経済環境を経て、今日の高度技術、高付加価値型産業への転換期を迎えています。

平成15年度には、平成における愛媛県内合併第一号として、新居浜市と別子山村が合併して新生新居浜市が発足しました。別子銅山の開坑により今日の基礎が築かれた新居浜市と別子山村は、文化歴史的背景を共有し、強い結びつきを持ち続けていますが、合併を契機にさらに共通の歴史を活かした新しいまちづくりに取り組んでいます。

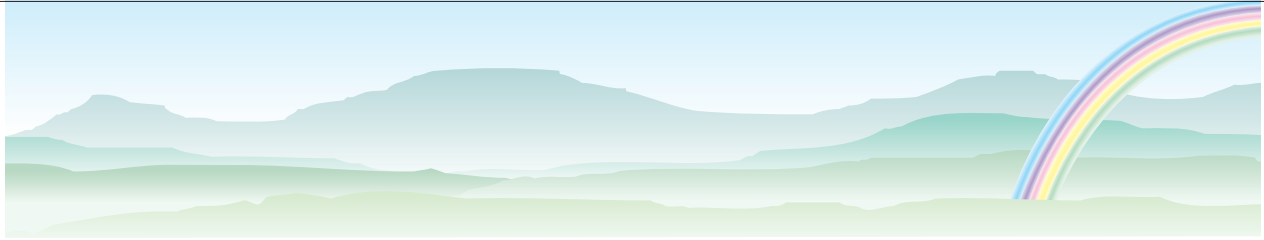
(3) 気候

本市の気候は典型的な瀬戸内式気候で、平均気温が6℃(1月)から26.7℃(7月)と温暖な気候に恵まれています。降水量は、梅雨時期の6、7月の平均が約166mm、台風時期である9月の平均が約220mmとなっています。



※平成11年～20年の平均

資料提供：新居浜消防本部



(4) 人口

本市の人口の推移をみると、昭和35～40年にかけては減少しましたが、その後は増加を続け、昭和55年には、132,339人となりました。しかし、その後僅かながら減少し、平成17年には123,952人となっています。

世帯数については、昭和35年以降増加し、平成17年には49,484世帯となっており、1世帯当たりの人員も2.5人と核家族化が進行しています。



「未来のにはま」

■人口の推移

国勢調査回数	年次	世帯数(戸)	人口(人)			増加率(%)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
			総数	男	女			
	昭和12年	6,740	32,254	16,024	16,230	-	18.39	1,754
5	15	8,261	42,392	22,669	19,723	131.4	18.39	2,305
6	22	12,206	51,930	26,313	25,617	122.5	18.39	2,824
7	25	12,443	57,421	28,618	28,803	110.6	18.39	3,122
8	30	22,804	107,234	52,938	54,296	186.8	161.60	664
9	35	29,167	125,688	61,356	64,332	117.2	156.55	803
10	40	31,929	125,155	60,863	64,292	99.6	156.69	799
11	45	35,430	126,033	61,009	65,024	100.7	157.41	801
12	50	39,366	131,712	63,979	67,733	104.5	158.62	830
13	55	41,190	132,339	64,042	68,297	100.5	160.05	827
14	60	42,995	132,184	63,695	68,489	99.9	160.54	823
15	平成 2年	44,280	129,149	62,081	67,068	97.7	161.14	801
16	7	46,559	127,917	61,460	66,457	99.0	161.23	793
17	12	48,126	125,537	60,034	65,503	98.1	161.30	778
18	17	49,484	123,952	59,190	64,762	98.7	234.30	529

※昭和12年は寄留法による表示

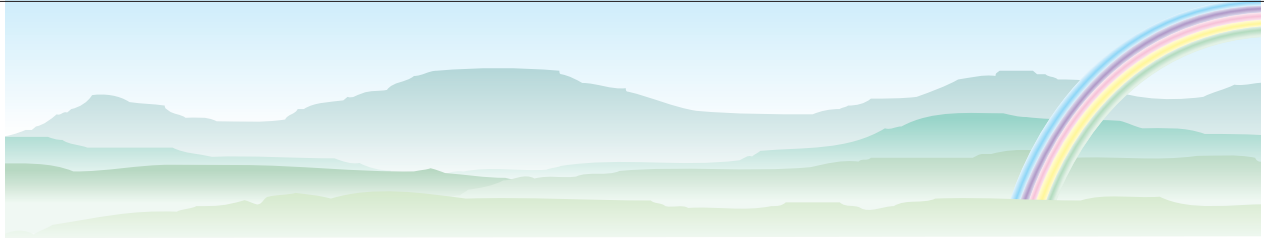
資料：国勢調査

■人口動態

年次	年増減数(人)	自然動態(人)			社会動態(人)		
		自然増減	出生	死亡	社会増減	転入	転出
昭和63年	△541	354	1,283	929	△895	4,316	5,211
平成 元年	△88	375	1,263	888	△463	4,340	4,803
2	△375	201	1,198	997	△576	4,334	4,910
3	56	287	1,259	972	△231	4,474	4,705
4	△173	182	1,204	1,022	△355	4,395	4,750
5	△362	118	1,206	1,088	△480	4,135	4,615
6	△249	111	1,226	1,115	△360	4,128	4,488
7	△731	56	1,200	1,114	△787	3,934	4,721
8	△368	145	1,227	1,082	△513	4,004	4,517
9	△307	140	1,253	1,113	△447	3,864	4,311
10	△481	43	1,231	1,188	△524	3,866	4,390
11	△518	△2	1,191	1,193	△516	3,728	4,244
12	△574	59	1,182	1,123	△633	3,588	4,221
13	△258	66	1,172	1,106	△324	3,662	3,986
14	△687	△74	1,149	1,223	△613	3,635	4,248
15	△132	△125	1,119	1,244	△7	3,586	3,593
16	△337	△219	1,077	1,296	△118	3,349	3,467
17	△393	△236	1,073	1,309	△157	3,581	3,738
18	△303	△252	1,011	1,263	△51	3,683	3,734
19	△298	△191	1,150	1,341	△107	3,568	3,675
20	△303	△224	1,145	1,369	△79	3,311	3,390

※△は負の表示

資料提供：市民課



(5) 人口集中地区 (DID地区)

新居浜市におけるDID人口は、90,171人(平成17年国勢調査結果)であり、昭和35年と比べると1.31倍、ピークの平成7年と比べると0.96倍となっています。

DID面積は、昭和35年の13km²から増加を続けていましたが、平成12年の29,61km²をピークに平成17年には29,11km²となり、国勢調査開始後初めて減少となりました。

項目	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成 2年	平成 7年	平成12年	平成17年
人口(人)	68,790	71,647	83,652	79,317	81,187	84,538	88,062	93,930	91,822	90,171
面積(km ²)	13.00	14.30	21.10	22.90	24.50	25.70	27.40	29.60	29.61	29.11
人口密度(人/km ²)	5,292.0	5,010.0	3,964.5	3,463.6	3,313.8	3,289.4	3,213.9	3,177.6	3,101.0	3,097.6

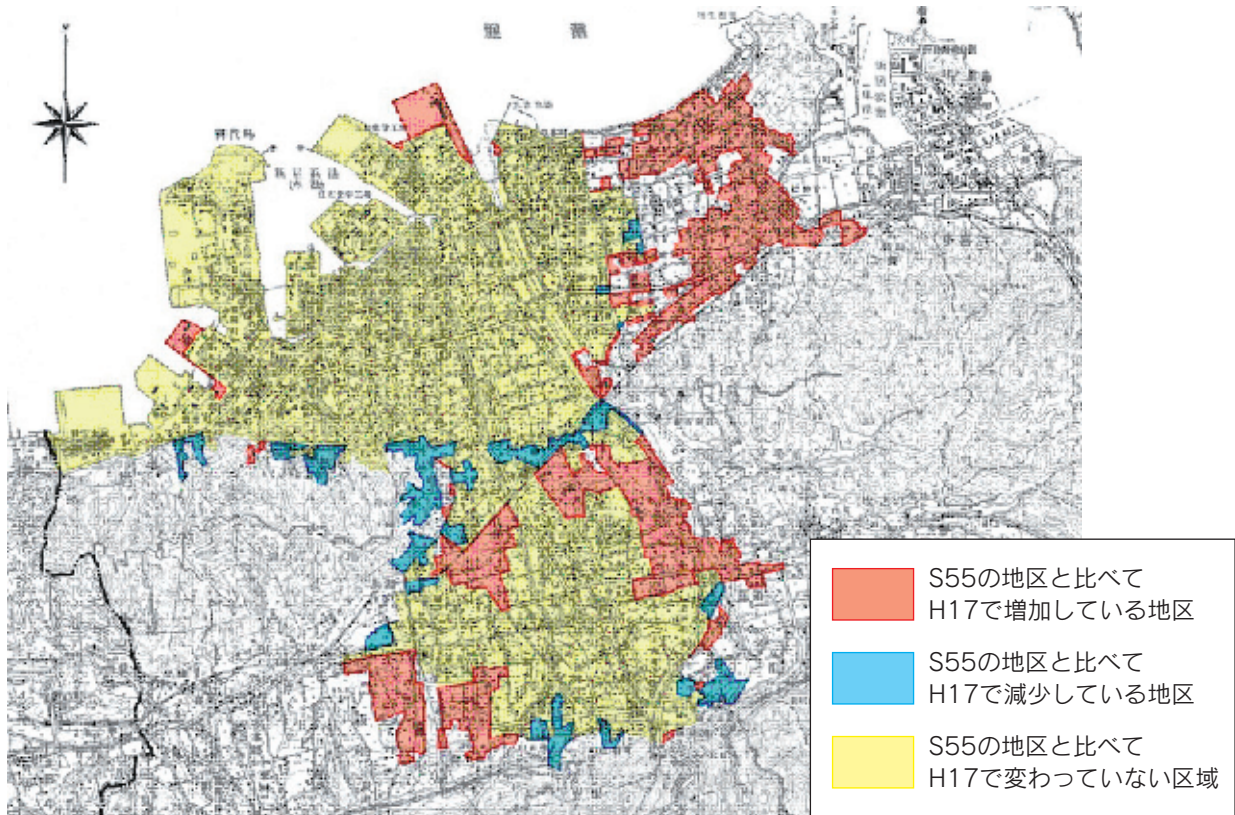
資料：国勢調査結果

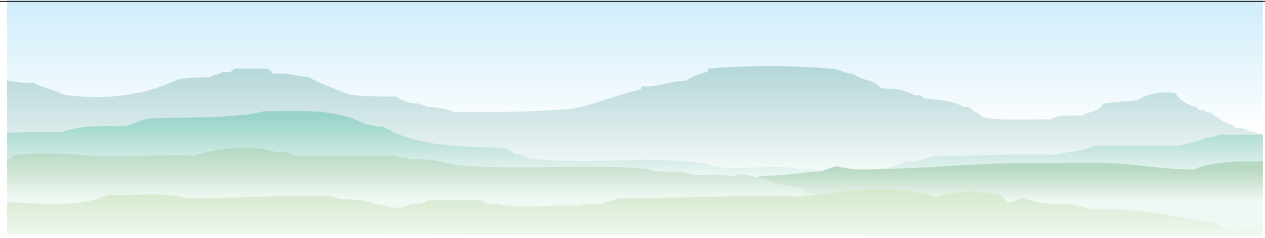
DID (Densely Inhabited Districtsの略) とは、人口集中地区のことで、国勢調査により設定される統計上の地区を意味しています。

市区町村の区域内で、人口密度が1km²当り4,000人以上の区域が連担し、人口が5,000人以上となる地区が該当します。

DIDは、都市的地域と農村的地域の区分や、市街地の規模を示す指標として用いられるほか、DIDに基づいた集計は、人口などの都市集中の実態把握や市街地の形成の度合いを示す基準として、都市計画や地域開発計画、交通計画、防犯・防災対策などで幅広く利用されています。

■人口集中地区の変遷図**





(6) 産業

①就業人口

新居浜市の産業は、住友系諸会社を核とした第二次産業(工業)を中心として発展してきました。しかしながら、近年では第一次及び第二次産業就業者人口の減少と、第三次産業就業者人口の増加が顕著になっています。昭和45年から平成17年の就業人口の動向をみると、本市の中心産業である製造業就業人口の減少が著しく、構成比をみても平成17年には、21.8%に低下しています。

一方、第三次産業就業人口はほぼ毎年増加しており、平成17年には、36,011人と64.3%を占めるに至りました。この現象は、社会、産業構造の変化を示していると考えられます。

■産業分類別人口の推移

年別	第一次産業			第二次産業			第三次産業						分類不能	合計
	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給水道業	運輸通信業	卸小売業飲食店	金融保険業不動産業	サービス業	公務		
昭和45年	4,463	97	636	633	5,754	20,324	921	4,178	10,812	1,344	8,637	1,251	66	59,116
50	2,257	49	499	165	6,162	18,994	866	4,262	11,334	1,534	9,471	1,242	188	57,023
55	1,895	96	441	68	6,868	17,279	882	4,125	12,594	1,776	10,869	1,449	49	58,391
60	1,882	71	341	17	6,433	17,135	750	3,820	12,626	1,950	12,005	1,520	61	58,611
平成 2年	1,299	47	297	8	6,965	16,079	578	3,842	12,344	2,049	13,331	1,229	29	58,097
7	1,316	63	271	3	7,459	15,233	542	3,874	12,683	1,990	15,344	1,351	98	60,227
12	845	56	218	5	7,423	13,583	489	3,847	11,704	1,737	15,959	1,335	83	57,284

年別	第一次産業			第二次産業			第三次産業											左記以外	合計	
	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給水道業	情報通信業	運輸業	卸売小売業	金融保険業	不動産業	飲食店宿泊業	医療福祉	教育学習支援	複合サービス業	サービス業			公務
平成17年	970	48	158	2	6,430	12,216	398	377	3,087	9,722	1,211	348	2,240	6,879	2,263	524	7,669	1,293	189	56,024

資料：国勢調査結果

②工業

本市の工業は非鉄金属、化学、機械、電力等の重化学工業分野に属する大企業と、これらに関連した地場中小鉄工業によってその大部分が構成されています。

本市の平成19年現在の製造品出荷額は約8,317億円であり、県全体の19.2%を占めています。

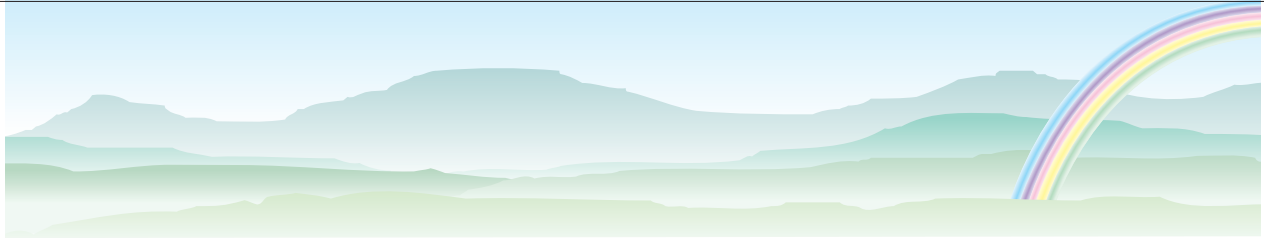
国・県の施策を積極的に活用し、本市で生産されている新素材を利用した新商品の開発、市場開拓生産システム等高度なシステムを構築していくための人材養成など、技術の高度化に積極的に取り組んでいます。

今後は、東予産業創造センターの活用による地域産業の高度化、自立化への支援を進めるとともに、多極型産業推進事業等による多様な産業集積の促進、中小企業振興条例等による雇用促進等に取り組みます。

■工業出荷額、事業所数、従業者数の推移

年別	工業出荷額(万円)	事業所数	従業者(人)
昭和45年	24,818,265	318	18,516
50	36,002,790	343	17,324
55	59,836,500	409	14,933
60	49,481,862	331	13,486
平成 2年	48,810,903	328	12,873
7	46,579,533	294	10,517
12	48,019,167	286	9,219
17	57,522,993	247	8,836
19	83,170,313	236	9,728

資料：工業統計調査



③商業

本市における商業は、住友企業及び関連企業の発展とともに自然発生的に形成されてきました。

しかし、近年の車社会の進展、大型店舗の出店、人口の郊外分散化などの複合的要因により、既存商店街の空き店舗が増大し、商店あるいは商店街としての魅力、活力が衰退しつつあります。

平成19年においては、店舗数約1,500店、従業員数約10,000人、商業販売額は約2,943億円となっており、店舗数、従業員数、商業販売額のいずれも減少傾向にあります。

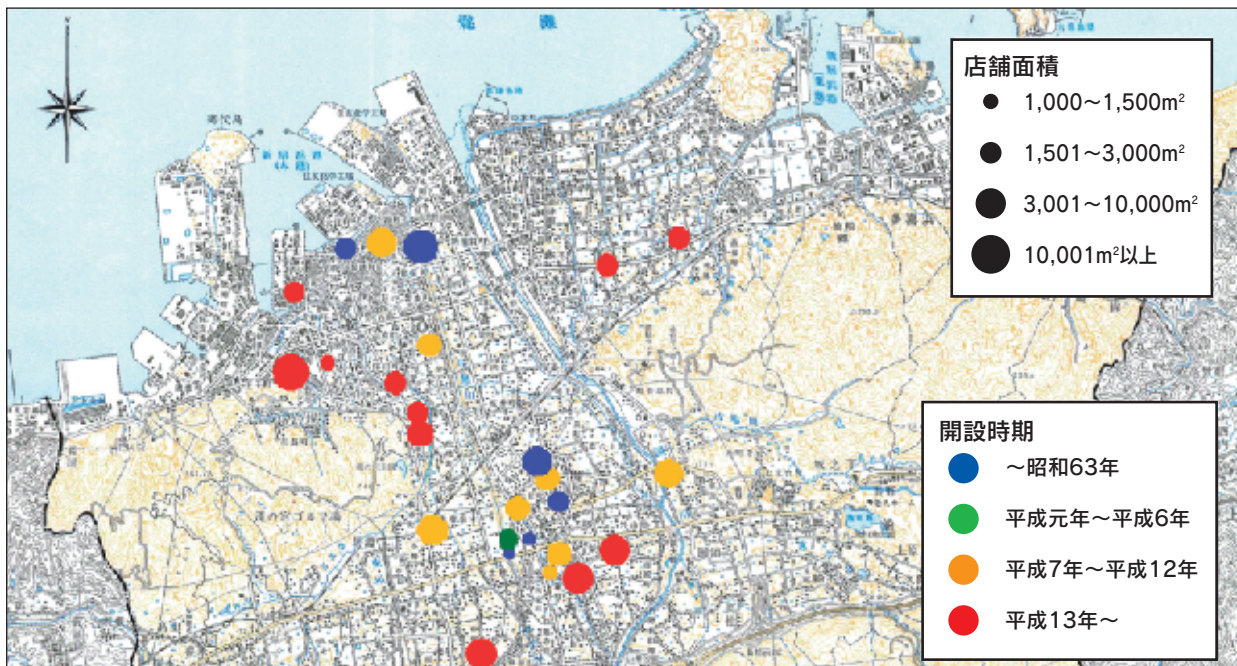
また、大店立地法の施行、新居浜駅前土地区画整理事業など、商店街を取り巻く環境の変化が一層進むものと予想されることから、平成11年3月に策定した「中心市街地活性化基本計画」に基づき、魅力ある商店街づくりを目指しています。

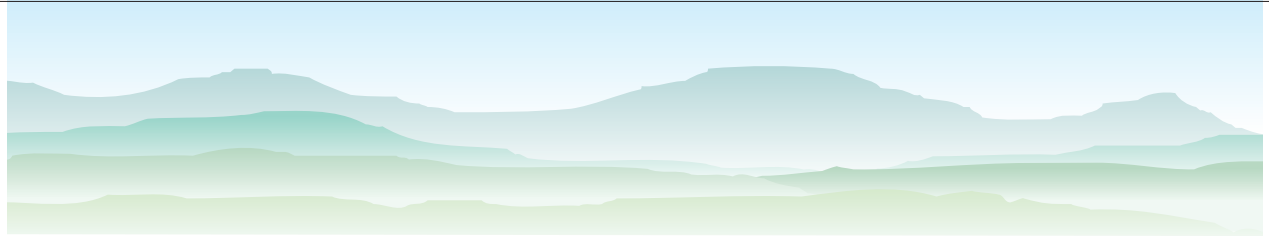
■店舗数、従業員数及び商業販売額の推移

年 別	店舗数	従業員 (人)	商業販売額 (百万円)
昭和45年	2,595	9,840	61,309
47	2,668	10,237	73,032
51	3,137	12,124	154,516
54	3,224	11,802	170,021
57	2,540	10,944	237,106
60	2,354	10,505	246,179
63	2,222	10,559	258,502
平成 3年	2,356	11,349	366,526
6	2,216	11,643	346,533
9	1,971	10,527	340,010
11	1,998	11,120	314,875
14	1,866	11,632	302,049
19	1,537	10,303	294,255

資料：商業統計調査

■大規模小売店舗の立地状況**





④農林水産業

■農業

平成17年の農業センサスによると、本市の農家戸数は1,896戸で、経営耕地面積は、646haであり、10年前の平成7年と比較するとそれぞれ16%、26%の減少となっています。

また、総農家数に対する比率では、専業農家数が12.6%、兼業農家数が28%となっています。

一方、種目別の経営耕地面積は、田が最も広く全体の54.6%を占めています。

■林業

本市の山林面積は、約16,625haで、そのうち人工林は約9,056ha、天然林は約6,206haであり、主要樹種は、ヒノキ、スギです。

森林資源造成のため伐採跡地にヒノキを主材木として計画的に造林を進めており、森林の持つ公益的機能の確保に配慮しながら、林業経営及び森林管理の改善並びに森林資源の開発を図るため、昭和62年度を初年度とする県営広域基幹林道開設事業等、各種の林道整備事業を継続実施しています。

■漁業

本市の漁業は、小型底びき網・サワラ流し網・船びき網・刺し網漁業等の小型漁船漁業が主体です。主な漁獲物はイワシ・アジ・カレイ・タチウオ・クロダイ・スズキ等です。

今後の水産振興を図るため、魚礁・つきいそによる漁場の造成、種苗の中間育成放流による水産資源の保護増殖、養殖漁業の推進、イワシ・エビ等の加工業を積極的に推進しています。